氏名：平野　稔也(青年海外協力隊)
滞在国：タンザニア
職種：理学療法士
タイトル：ザンジバル日記(Habari za Zanzibar)15

友達紹介

　また、友達紹介に戻りますね。もう数回しかお話できる回はないのですができるだけ現地の友達を紹介できればと思います。

　さて、この子は「ファットマ」という名前の女性です。
＊最後に“ン”をつけると太った人(Fat Man)という意味に…覚えやすい。

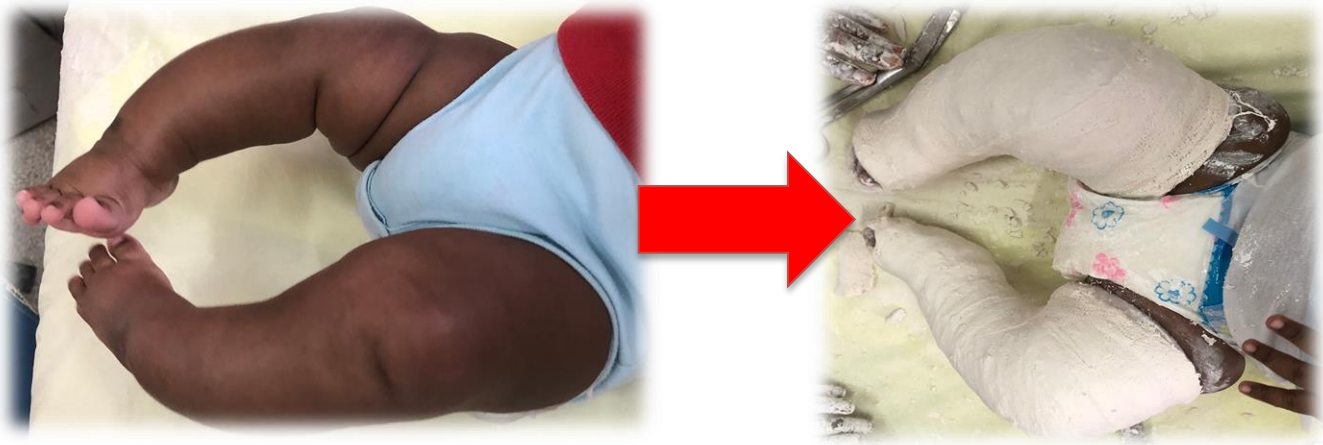
　彼女との出会いは、実は一番始めからのお付き合いになります。私が赴任した時にちょうど､最終学年だった彼女は卒業して現在はお仕事探し中。その間に病院のお手伝いという形で一緒に仕事をしています。

　彼女も働き者で楽しく仕事をしているのが印象的。ただ、仕事が見つからない現状をみるとできる限りサポートしたいと思ってしまう一人です。

病院活動　「クラブフットの現場から」

　活動が無事に再開！先日はクラブフット(内反足:生まれつき足の形状が歪んでいる疾患)のギプスを行う場所に行ってきました。
ここでは、歪んだ足に対してギプス固定を行う場所になります。大体数ヶ月続け、骨の成長を適切な方向へ強制していきます。

　ここではなんと無料でギプス固定を行ってもらえます。ここアフリカでは、大家族が多いですが、家族の中に障害を持って生まれることが 1～2 人いてもおかしくはありません。その中で生まれつき障害や骨の変形を持ってくる子も多く見受けられます。また、そういった子供達が早期に適切な治療を受けられればいいのですが、母親の知識不足や家庭の事情により治療が遅れてしまい、後遺症が色濃く残ってしまっているケースも多くあるもの現状です。



ラマダン　「今回、2回目となるラマダン」

ラマダン..といえばイスラム教が一年一回に行う断食ですね。去年、初めて経験しましたが今回は早くも二回目！ということは、経験できる最後のラマダンでもあります。今回もフターリ(みんなが一日の終わりに最初に食べる食事のこと)をご一緒させていただくことができました。

ラマダンの食事のいいところは、何と言ってもご飯が豪勢で美味しいこと。家族大勢が集まり、日本で言う「親戚の集まり」(いわゆるお正月に近いかな)の様な雰囲気です。米を使った料理から芋をメインに使った料理まで。最近では、マカロニを使ったイタリアン風の料理まで用意するところもあります。今回は、モスクでのお祈りも経験することができたのでまた次回にお伝えしますね。

終わりに

最近、目にした話で「日本のガラパゴス化」が言われていますね。日本独自の発展と日本語という第一次言語をとても重んじる習慣が独特とも思われているようですね。

確かに、一つの島国でこれだけ完成された物や食べ物がありふれている社会はここにいると不思議に感じる部分もあります。もちろん、宗教的な側面が海外において大きく影響していることも大いにあると思いますが。そういった中で異国から受ける“刺激”はとてもいい刺激なのではないかと感じるようにもなってきました。ではまたお会いしましょう。